

## 令和6年度第2回近畿中国森林管理局国有林材供給調整検討委員会の開催結果について（概要）

第2回近畿中国森林管理局国有林材供給調整検討委員会を開催し、供給調整の必要性等についてのご意見を頂きました。

### 1 日程及び場所

令和6年9月11日（水）

近畿中国森林管理局 4階 大会議室 A（対面Web併用形式にて開催）

### 2 議題

- （1）近畿中国局管内の木材需給動向について
- （2）国有林材供給調整の必要性について
- （3）その他

### 3 議事概要

#### 《検討結果》

国産丸太は、全般的にスギ、ヒノキともに出材は低調である。

住宅関係について、管内の木造住宅着工戸数は、4月に一時的に対前年同月比で増加に転じたが、5月以降は再び減少に転じ、低迷している。

製材品は、プレカット工場の稼働率が回復してきている地域もみられるが、全体的に回復感希薄である。

合板については、20%程度の減産を継続しており、価格は実需の停滞に押され弱含みとなっている。

木材チップについては、燃料用チップに不足感が一層強まっており、燃料用原木価格が高騰している。製紙用チップも需要が旺盛で、輸入材価格の高騰も相まって国産チップの需要が高まり、燃料用チップとの価格競争となっている地域もみられる。

輸入製材品は、構造材、羽柄材ともに、依然として荷動きが低調であり、輸入羽柄材の在庫は増加傾向にある。

以上のことから、製紙原料用を含めた木材チップ関係の需要は旺盛なものの、木材加工関係の荷動きは依然として低調であることから、直ちに国有林材による供給調整を行う局面にあるとは判断しない。

なお、国有林においては、地域における需給動向、民有林の出材状況、住宅着工戸数等について注視しつつ、引き続き情報収集・分析を行いながら、素材生産事業を着実に実行するとともに、立木販売の落札率が低い現状を踏まえて、販売方法の工夫を行いつつ、木材の安定供給に努める。

## 〈主な情報、意見等について〉

### ○木材の需給動向について

- ・ 和歌山県内の令和6年次、上半期素材生産事業については対前年同期比112%となり、平成28年度統計から過去最大の生産量となっており、内訳としては主伐が83%を占めている。
- ・ 住宅需要は物価高騰の影響で低調である。バイオマス用材への出荷については、対前年同期比141%増となっている。製材用材への出荷については対前年同期比で同程度となっている。
- ・ 島根県内の6月から7月の木材供給量は、対前年同月と同じ程度で101%となっている。用途別に、製材向けは2割近く減少、合板向けが4割以上増加、燃料用バイオマス・製紙チップ向けは3~5%減少となった。4月以降県内の住宅需要が低調で、製材向け供給量が大きく減少しており、今後の動向を注視している。
- ・ 岡山県内の6月からヒノキの価格は安定し、天候にも恵まれ順調に出材が続いており、特に今月は特別記念市が各市場で開催され、4,000m<sup>3</sup>を超える出材が続いている。価格については、保合状態が続いている。
- ・ 各県の素材生産業者は増えてきた。それに伴い、出材量も増えてきている。
- ・ プレカット工場として、米松を仕入れているが、5,000円/m<sup>3</sup>価格を下げる報告が1週間程度前にあった。
- ・ 中国向け輸出について、最近7月までは良かったが値段として不利になってきた。バイオマス発電も引き合いがあり、価格が用材とあまり変わらない。
- ・ 石川県能登半島からの合板用材は、被害が大きかった能登森林組合が去年の出材数量の6割程度回復してきたこともあり原木不足にはなっていない。
- ・ 合板価格について、9月の現状は1,150円/枚でウッドショック時のマイナス40%、一方、スギの原木価格はウッドショック時のマイナス10%しか下落していない。
- ・ 奈良県内の民有林は先行き市況の不安から早々に搬出を伴わない森林整備にシフトしていた為、素材生産量の増加には繋がっていない。また、製品需要も悪く、夏場の新木仕入も手控えていた為、原木在庫は減少しており少なめ。
- ・ スギ・ヒノキともに伐り旬の悪い新木伐採木により価格が下落したが、7月以降は出材量減少に伴い下げ幅は小さく安定している。
- ・ 大阪府内の製品市場では、7月は前年と比較して売上高が17.0%減、販売量が20.8%減、入荷量が12.1%増。前月との比較では売上高が19.2%増、販売量が15.6%増、入荷量が26.8%増となった。木材価格は全体的に需要減で弱含みの状態が続いている。
- ・ 5月中旬以降から荷動きが低迷、特に6月は悪く売上高・販売量とも過去最低となった。7月はその反動で、桧材のみ販売量が大幅増となったが、これは、プレカット工場の在庫量が減った影響と思われる。

## ○今後の見通し

- ・ 民間の出材は増加しているが、森林組合からは減少している。猛暑の関係から秋口まで減産傾向になる可能性もある。
- ・ 設備機器や運送費、人件費の値上げもあり、住宅価格の上昇、金利の引き上げにより住宅着工戸数減少が続く傾向にあり、木材の需要は厳しい状況が今後も続くと思われる。

## ○その他

- ・ 素材生産業者が増えているが、民間の経営計画を立てている場所は年々縮小している。搬出が中々厳しい箇所が増えてきたため、計画を立てにくくなっている。
- ・ 立木販売について、最近では地元対応や濁り水の関係や環境に配慮したことを考えていかないといけないことから、手間がかかる。
- ・ スギの花粉症対策の木材利用促進支援事業として、一定量を超えるスギ材の使用が必要で、住宅30坪（約100㎡）で0.081㎡の使用が必要なので30坪なら8.1㎡のスギ材を使用することで最大で70万円の補助金が工務店に出るが、エントリーが短期間にもかかわらず申請総額が補助総額を上回った。今回の特徴について普段は国産材使用（米松含む）がスギ限定であることと、構造検証が必要であることでした。来年の4号特例縮小の対策として、構造設計事務所を立上げているので構造検証をしてみると、スギの無等級でも十分対応出来ることが分かってきた。梁・桁の240mm以下、（150mm、180mm、210mm、240mm）は無等級でも問題ない。その上の270mm、300mm、360mmになってくるとE90やE110でクリアできる。今後スギでも構造設計上は可能であることの周知をしていかないといけない。
- ・ 早生樹について、コウヨウザンの合板は、品質面で不適と考えている。今後、伐採時期がきた中国のコウヨウザンが中国産合板となって輸出され、もし、大手ハウスメーカーが使うとなれば、日本の合板メーカーは潰されてしまうのではないかと危惧している。

## 令和6年度

### 第2回 近畿中国森林管理局国有林材供給調整検討委員会

### 出席者名簿

#### 委員

氏名	所属等	備考
立花 敏	京都大学 教授	
原 賢一郎	和歌山県農林水産部森林・林業局 林業振興課長	Web出席
掛屋 晶則	岡山県農林水産部 林政課長	ご欠席
錦 織 誠	島根県農林水産部林業課 管理監（木材振興室長）	
戸川 睦徳	株式会社戸川木材 代表取締役	Web出席
八木 数也	株式会社八木木材 取締役	
三栖 基史	株式会社山長商店 常務取締役	
荻原 直樹	中国木材株式会社山林事業部 副本部長	Web出席
内藤 和行	林ベニヤ産業株式会社 代表取締役社長	
難波 芳英	江与味製材株式会社 代表取締役会長	
西垣 泰幸	西垣林業株式会社 会長	

#### 森林管理局

氏名	役職等	備考
川浪 亜紀子	次長	
石上 公彦	森林整備部長	
長屋 秀樹	資源活用課長	
前田 浩二	企画官（長期安定供給）	
川畑 弘樹	供給計画係長	